

みんなであげ たけの子祭り



雨が降り続いた後だったのですが、ヤキモキしましたが、お祭り前日の草刈りも保護者の皆様のご協力のもとスムーズに進行し、たけの子祭り当日を迎えることができました。お父さん達（もちろんお母さん、そして子ども達も）が大活躍してくださり、とても心強く思いました。ありがとうございます。

◇「のをこえやまをこえ」の挑戦

たけの子は普段からたくさん身体を使って遊んでいるのですが、その遊びを集大成したのが、「のをこえやまをこえ」です。一本橋渡りから始まり、竹ぼうくり、脚立からジャンプで降りる、こいのぼりくぐり、前回り、ウマトび、なわとび、そして見せ場の保育者の肩に立って前転で降りるという一連の動きをひとりずつ行う競技です。これは、横浜市の「つくしんぼ」という自主保育グループの競技をお手本にしています。そこは年長・年中が中心の園です。たけの子には年少児も2歳児さんもいるので、この競技に参加できない子もいたり、待っている時間が長いという反省もあり、今年からやることを5つにしぼりました。それでも、普段から縄跳びやたけぽつくりはしていたので、「のびるちよきん」を新たにづくり、子どもたちの「やる気」を応援しようと考えました。

◇のびるちよきん

のびるちよきんは、なわとびやたけぽつくりに挑戦して、できたら「のびるシール」を貼れるという仕組みです。でもそれだと、小さい子はなかなか貼れません。それで、お片付けをしたり、お昼ご飯を完食したら貼れるということにもしました。みんな優しいので、小さい子がちよつでもお片付けをしていると、「いいよいいよ」と言ってくれるので、小さい子も少しずつシールが貯まっています。

ご飯は完食しないとシールは貼れないのですが、これは、自分が食べられる分が自分でわかるというようになってほしいという思いからです。フードロスが多い日本でも、食べ物輸入に頼っている日本。どこかおかしい気がします。甘い物を先行させてしまっ、体を作るものが入らないようにはしたくありません。でも、食事の楽しみもあるのはいいことです。なので、たけの子では、甘い物は全部食べられた子のご褒美として最後に食べるように言っています。

◇最初はできなくても

たけの子ではいつも「しっばいはいいことだ」と話しています。誰にだって、「はじめは」はあります。そして、できない自分につながりすることはあると思います。大人だってそうですね。まして、子ども達は、日々挑戦の連続だと思っのです。それを、「できないからイヤだ」とか「できないのは恥ずかしい」とか思わないで、思わせないで、せめて子どもの時ぐらい過ぎしてほしいと願っています。

子どもの時って「根拠のない自信」とでもいいいますか、そういうものがあると思っのです。それはつまり、

自尊心というものではないでしょうか。赤ちゃんは生きてるだけで、存在しているだけで、周囲を幸せにします。にっこり笑ったりしたらもうたいへんです。子ども達を見ているとどんな時もなんにでも一所懸命で、ついつい微笑んでしまいます。

怒る時も、笑う時も、困っている時も、いつもいつも一所懸命です。そんな子ども達をわたし達は心から応援しています。

余談ですが、わたしは「一生懸命」という言葉よりも「一所懸命」の方が好きです。人生を、命を懸けるのはいつもはできません。でも、その時その時を精一杯生きることができません。それが「一所懸命」だと思っのです。

◇子どもたちそれぞれの挑戦

「のをこえやまをこえ」の何に挑戦するのか、何回やるのか、子ども達自身が決めます。当日できなくてもいいのです。翌年、できるようになるかもしれません。そして、そのことを子どもはよく覚えていきます。自分の成長を感じているのですね。

お神輿を担ぐ時に笛を吹くのは誰なのかも自分達で決めました。譲ったり、譲られたり、決めたことを変えなかったり、変えたり、それぞれです。それでいいのです。自分で決めることが大切なのです。

たけの子は「なんだってじぶんでできるんだ」を大切にしています。でも、それは、自分ひとりではなくてもできるということではありません。時に助け、助けられる関係を大切にしていきたいと考えています。

辺見妙子